

令和3年度 危機的な状況にある
言語・方言サミット（気仙沼大会）

被災地方言の状況と 保存・継承の取り組み

大野真男（岩手大学嘱託教授）

1. 文化庁支援事業の流れ

「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究」事業

平成23年度 東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究事業（東北大学）

平成24年度 東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業

（青森県・弘前学院大学）

（岩手県・岩手大学）

（宮城県・東北大学）

（福島県・福島大学）

（茨城県・茨城大学）



平成25年度以降

「被災地における方言の活性化支援」事業へ

被災地における方言の活性化支援

「東日本大震災からの復興の基本方針」
（平成23年7月29日）において、「『地域のたから』である文化財や歴史資料の修理・修復を進めるとともに、伝統行事や方言の再興等を支援する。」と明記されていることを受けて、被災地における方言の再興を通して地域コミュニティの再生に寄与する取組を支援しています。

弘前学院大学 「発信！方言の魅力 体験する青森県の方言」
「発信！方言の魅力 かだるびゃ・かだるべし
青森県の方言」

岩手大学 「三陸の声を次世代に残そうプロジェクト」
「おらほ弁で語っぺしプロジェクト」

東北大学 「被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録
と公開」

福島大学 「被災地小中学校における方言教育実践の構築」
「福島県被災地方言の談話資料収集とweb発信」
「被災地方言の談話資料収集と保存継承活動」

茨城大学 「方言がつなぐ地域と暮らし」
「被災地方言と方言で語る生活文化の再発見と継
承：茨城と福島浜通りの方言を中心に」
「方言と方言の昔話による生活部文化の保存・継
承」

上記の5大学に加えて、以下の企業等からの参加も見られた。

○平成25年度

有限会社ひとみ座「子どものための舞台フェスティバル」

有限会社弘前劇場「方言を主体とした演劇公演」

シェイクスピア・カンパニー「『新リア王』被災地を巡る旅」

株式会社クリーク・アンド・リバー社「方言アフレコ体験教室」

○平成26年度

飯館までい文化事業「『までい』方言プロジェクト事業」

シェイクスピア・カンパニー「東北弁のシェイクスピア ワークショップ」

株式会社クリーク・アンド・リバー社「方言アフレコ体験教室」

○平成27年度

明治学院大学ボランティアセンター「吉里吉里カルタを活用した、吉里吉里語の継承と地域再生」

歌津復興夏まつり実行委員会「おらほの劇場」

有限会社ひとみ座「子どものための舞台芸術フェスティバル『人形を使って福島弁をおはなししよう』」

シェイクスピア・カンパニー「東北弁によるシェイクスピア翻案劇プロジェクト」

○平成29年度～令和元年度

株式会社エフエム会津「語り継ぎたい地域の物語～会津・浜通り」

方言アフレコ体験教室

八戸・釜石・仙台・福島・大洗の言葉で話してみよう

文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

HOME

青森県
八戸市

岩手県
釜石市

宮城県
仙台市

福島県
福島市

茨城県
東茨城郡大洗町

方言アフレコ体験教室

はちのへ かまいし せんたい ふくしま おおむらい
～八戸・釜石・仙台・福島・大洗の言葉で話してみよう～

このサイトでは、「おねえさん」とオリジナル・キャラクターのやり取りを動画で見ながら、青森県八戸市、岩手県釜石市、宮城県仙台市、福島県福島市、茨城県東茨城郡大洗町の五つの地域の魅力とそれぞれの方言を学ぶことができます。

共通語版、方言版のほか、^{せいの}台詞音声を抜いたアフレコ体験版等の動画がそれぞれの地域ごとに用意されています。各方言を聞いて、その違いを楽しんでみたり、台本をダウンロードして、自分自身で動画に合わせて表現してみたり、様々な体験を通して方言の魅力に触れてみてください。

*各地域には様々な方言があり、この動画で取り上げた方言はそのうちの一つであり、その地域の方言の標準を示しているわけはありません。

*ダウンロードできる台本の表記は、台本という性格上、共通語に近い音を書き表すための工夫やアフレコをしやすいような記号等の使用をしており、公用文表記とは一致しない部分があります。

各地域の特徴を知る



各地域が、日本の中のどこに位置しているのか、どのような特徴を持っているのかなどを紹介しています。

登場人物の紹介



館鼻岸壁の朝市に行こう！



釜石港に行こう！



仙台城に行こう！



方言アフレコ体験教室
(文化庁HPより)

詳細を見る▶

八戸市・釜石市・仙台市

「被災地の方言活性化支援」事業から派生して 「実践方言研究会」の立ち上げへ

2012年から続けてきた東日本大震災に関わる「文化庁委託事業研究報告会」を発展させて「実践方言研究会」を立ち上げた。方言によるコミュニケーション上の障害や効果、地域社会の活性化への寄与、そして、次世代への継承と教育といった方言学の実践的な課題を扱う。幹事は小林隆氏ほか、6名の支援事業関係の研究者がつとめる。

第1回研究会（2017年11月11日）から
第8回研究会（2021年10月16日）まで開催



四方のことば、八方のことばを、カラフルな色合いと吹き出しで表現しました。

そこには、方言活用のバラエティや、みんなで対話する様子も重ね合わせました。

「方」を真ん中に配置し、どの吹き出しにもつづくようにして、「方言」を想起させるように表現しています。

編集委員代表・小林隆 『実践方言学講座』
(2020年・くろしお出版)の刊行へ



「被災地の方言活性化支援」事業から派生した 『実践方言学講座』所収の報告等

第1巻 社会の活性化と方言

第2章 田中宣廣「メッセージの中の方言活用」

第12章 今村かほる「方言を活用した市民団体の取り組み」

第2巻 方言の教育と継承

第1章 大野眞男・杉本妙子「学校教育における方言学習の可能性」

第3章 小林初夫「ふるさとのことばで学ぶ被災地での授業実践」

第7章 杉本妙子・今村かほる・竹田晃子・小島聡子
「方言継承と昔話の語りの活動」

第13章 小林隆・内間早俊・坂喜美佳・佐藤亜美・小原雄次郎
・櫛引祐希子「継承の基盤としての方言会話の記録」

第3巻 人間を支える方言

第5章 津田智史・小林隆「災害と方言をめぐる課題と指針」

第8章 櫛引祐希子「仮設住宅における方言支援活動」

第9章 半沢康・本多真史「災害からの復興期における行政と方言研究者の連携」

2. 被災地方言の状況

UNESCO(2003)の言語の体力測定尺度による 岩手県沿岸部方言の状況

以下の九つの項目の下に、該当する状況を判断する5から0までの六つの評価指標（数字が低いほど状況が悪い）がそれぞれ示されている。

大野眞男（2013）「岩手県被災地方言の現状について―危機言語尺度の観点から―」『文化庁委託事業報告書 東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（岩手県）』より

- （1）方言がどの程度次の世代に伝承されているか
【2～3】の状況（方言は親もしくは祖父母の世代以上で使用されており、子どもたちは使用していない）

(2) 母語話者数 および (3) コミュニティー全体に占める話者の割合

【3】の状況（方言を使用している者が大半を占める）
ただし、高齢者が人口構成の過半を占めており、将来的に話者数は激減することが予想される。

(4) どのような場面で方言が使用されているか

【2～3】の状況（方言は家庭では使用されているが共通語が家庭でも使われ始めた。あるいは、方言の使用場面は限定されている。）

(5) 伝統的な場面以外で新たに方言が使用されている場面がどの程度あるか

【1～2】の状況（方言はいくつかの新たな場面で使用されるか、ほとんど使用されていない）

- (6) 教育に利用されうる方言資料がどの程度あるか
【2】の状況（資料は存在するが限られた者にしか利用されておらず、学校教育には取り入れられていない）
- (7) 国の言語政策
【2～3】の状況（国は方言の保護政策を進めておらず、共通語の使用を進めている）
- (8) コミュニティー内での言語に対する態度
【2～3】の状況（方言が次世代も使われることを望んでいる者もいるが、その他は無関心であるか、方言が使われなくなること望んでいる）
- (9) 言語記述の量と質
【2～3】の状況（限られた言語学的目的のために利用可能な資料はあるが、録音・録画資料はあまりない）

これらの九つの項目の判定値を仮に平均化すると【2～3】ということになるだろう。各項目の評価語は個別的であるが、仮に（1）「次世代への伝達状況」（3）「方言話者割合」の項目に与えられた評価段階と評価語を示すと、

5 安全

4 安全ではない

3 間違いなく危機に晒されている

2 深刻に危機に瀕している

1 危機状態において危機にさらされている

0 すでに消滅している

となっており、これに照らすと岩手県沿岸部方言の現状は、決して安定的ではないことは明確であろう。琉球諸方言等について国立国語研究所（2013）が指摘したのと同様な危機的状況である。

3. 言葉の研究者に どのような支援ができるか

言葉の機能について

言語の社会的役割を論じたEdwards(2009)は、言葉の持っている機能を、

通達的機能 communicative function

象徴的機能 symbolic function

に分けてとらえている。前者は意思疎通の道具としての機能である。後者は地域や集団の文化と密接に結びついたものであり、アイデンティティー表出機能とも呼ばれる。

災害対応事業について時系列に整理すると、一般的に以下の三段階が存在し、関係する言葉の機能も違っている。

1) 防災・減災段階

被災体験を
語り継ぐ

2) 発災時の支援段階

→言葉の**通達的機能**
(意思疎通の道具)

『支援者のための
気仙沼方言入門』

3) 再興支援段階

→言葉の**象徴的機能**

『支援者のための気仙沼方言入門』 2011年8月27日発行

作成：東北大学国語学研究室



このパンフレットをご覧くださいる方へ

このパンフレットは、主に気仙沼地方の外から来られたボランティアや医療・行政関係者といった支援者の方々を対象に作成されています。現地の方との交流の中で、初めて聞く方言に戸惑ったこともあるのではないのでしょうか。気仙沼の方言をより理解するために、このパンフレットを役立てていただけたらと思います。

なお、このパンフレットは現地でいった支援者の方々へのインタビュー調査の結果をもとに、気仙沼の方言について簡単に紹介しています。

気仙沼方言の位置

気仙沼で話される方言は、全国から見ると東北地方の方言の特徴を持っています。

右の図のように、気仙沼は宮城県の北東部に位置する市で、岩手県南部の沿岸地域と地理的に連続しています。そのため、方言の特徴としては宮城県の言葉の他に、岩手県南部の沿岸地域の言葉とも共通した面があります。



気仙沼方言って、どんな方言??

気仙沼の方言にはどんな特徴があるのでしょうか。今からいくつか、注目すべき点について紹介します。

1. 発音

(1) シガスに聞こえる

シはスに、チはツに、ジはズに聞こえます。いわゆる「ズーズー音」です。

「獅子(しし)」 } 「スス」
「嵐(すず)」 }
「毒可(すし)」 }

「知事(ちじ)」 } 「ツズ」
「東国(ちず)」 }
「じ(つじ)」 }

気仙沼の地名だと、
鹿折(ししおり)が「ススオリ」
鮎立(しびたち)が「スビダツ」
に聞こえることがあるかも。



他にも、シュはス、ジュはズ、チュはツに聞こえます。
「千巻(しゅまわ)」→「スズマ」

(2) カ行・タ行ガガ行・ダ行に聞こえる

たとえば「開ける」は「アゲル」、「的」は「マド」のように聞こえることがあります。ちなみに、共通語の「上げる」や「虎」など、もともとの発音は鼻にのめって聞こえます。

「開ける」→「アゲル」
「的(まど)」→「マド」

「上げる」→「アゲル」
「虎(まど)」→「マド」

支援者の方へのインタビューで得られた、**音がのめって聞こえる**という感想は、この鼻濁音によるものだと思います。シヤー。



(3) カガ子に聞こえる

カガ子に聞こえることがあります。

「枯(かき)」→「カキ」
「未だ(きた)」→「チカ」

支援者の方から聞いた話だと、「**お前**が「**チューチューシヤ**」に聞こえた。」という体験談があったよ。



東日本大震災で被災したコミュニティが再興されていく際には、後者の地域アイデンティティー表出に関わる機能が、傷ついた地域コミュニティの再生と深く結びついていた。

大津波のあとの瓦礫の中から自然発生的に、

「がんばっぺし、釜石」

「なじょにかすっぺし、陸前高田」

などというペンキ書きの復興メッセージが出現してきたことは記憶に新しい。

あえて方言でしか表すことのできない、地域の仲間意識や連帯的感情が込められており、方言の力強さといってもよいだろう。

言語研究者が復興支援段階の活動の一部に参加し、危機的状况に置かれた言語・方言を活性化するためには、従来の研究者が行ってきた研究手法とは異なる研究の枠組みの拡大が必要であること不可欠であることを実感せざるを得なかった。近年の社会言語学の諸動向もそのような方向性を示している。

①言語の担っている機能・役割を拡大的に見直すこと

②言語に対して、研究的姿勢のみでなく、マネジメント的姿勢を持つこと

①については、4. で述べたように、言葉の持つ伝達的機能と象徴的機能のうち、後者の**アイデンティティー表出機能**に注目し、ともすれば少数言語・方言では弱ってしまいがちなこの機能を涵養・強化することで、地域アイデンティティーの奮い起こしを図る必要がある。

②については、あたかも自然科学者のように言語や言語使用の記述・観察のみを行う立場から、アイデンティティー表出機能の奮い起こしに向けて、積極的に地域の言語生活に関わる姿勢に転換する必要がある。

「方言と共通語の共生」という言語の安定的な生態系のためにこそマネジメントの観点が求められると考える。

研究者が貴重な方言であることを力説しても、話し手たち自身にとっての価値観に訴えなければ危機言語・方言が継承されることはない。大野（2015）でも述べたように、単に①方言を記録すること以外に、

②方言の学習材を作成する

（学術論文ではなく、方言の学びに役立つもの）

③方言を伝える場を設定する

のようなプロセスが求められるだろう。ことに、③のレベルの活動が重要であり、一般市民や次世代の小・中学生を対象に、方言で昔話を語り聞かせる活動、方言演劇活動などが、地域にとっての方言の価値に気づいてもらうために有効であることを経験してきた。

②「方言の学習材を作成する」は、UNESCOの評価項目

(6) 教育に利用されうる方言資料がどの程度あるか

【2】の状況（資料は存在するが限られた者にしか利用されておらず、学校教育には取り入れられていない）

の状況の改善を図るものであり、

③「方言を伝える場を設定する」は、UNESCOの評価項目

(8) コミュニティー内での言語に対する態度

【2～3】の状況（方言が次世代も使われることを望んでいる者もいるが、その他は無関心であるか、方言が使われなくなること望んでいる）

の状況の改善を図るものである。

また、UNESCOの評価項目

(7) 国の言語政策

【2～3】の状況（国は方言の保護政策を進めておらず、共通語の使用を進めている）

についても、学校教育の世界で大きな転機を迎えている。

小学校学習指導要領（国語科）で昭和43年以降「共通語と方言とでは違いがあることを理解し、また、必要な場合には共通語で話すようにすること。」（小学校5・6学年）とされていたものが、平成29年告示の学習指導要領では、単に「共通語と方言との違いを理解すること。」（同）となり、中学校学習指導要領（国語科）の「共通語と方言の果たす役割について理解すること。」（中学校1学年）へと発展していく。「方言の役割」とは、まさにアイデンティティー表出機能に他ならない。

4. 岩手県釜石市での取り組み

10年前、東日本大震災で被災した街、釜石には、昔話を方言で語る女性グループ「漁火（いさりび）の会」がある。

彼らと連携することで、方言語りを通じて被災した地域の文語文化の活性化を支援する活動を8年間継続してきた。

その一部を紹介すれば、

○方言学習材の作成

『釜石 漁火の会 おらほ弁で語っぺし 須知ナヨ昔話集』

『釜石 漁火の会が おらほ弁で語る ふるさとの昔話』

などを作成し、釜石市内の小学校等に配布した。

○方言昔話の語りの会の継続的開催

「南部弁サミットin釜石 おらほ弁で昔話を語っぺし」

をはじめとして、釜石市内の公民館や小学校をめぐって、方言で昔話を語り聞かせる活動に取り組んできた。

釜石漁火の会が
おらほ井で語る

ふるさとの昔話



科学研究費基盤研究(C)「被災地域の言語文化復興に向けた取り組みの
理論と実践に関する統合的研究」(課題番号16K12364) 成果物



①から⑰の番号は、右ページの「もくじ」にあるお話が語られた場所です。探してみてくださいね！
遠野から来たお話もあります。

もくじ

① 屁っぱり嫁	1
② 海の水はなぜからい	13
③ 鬼岩	23
④ 狐磯	31
⑤ つま洲の河童	39
⑥ 糠餅と地蔵様	51
⑦ 長い長い綱っこ	61
⑧ 白蛇八雲神社伝説	67
⑨ 逢わず沼	79
⑩ 笛吹峠	87
⑪ 迷い家	99
⑫ 小川の山姥	105
⑬ 芍薬になった	113
⑭ せやみ	123
⑮ せっこぎ	129
⑯ かばねやみ	135
⑰ 数え唄 一兵衛さん	140

本文の説明

(1) 本文は、方言で書かれています。本文の漢字右がわには、方言でのよみかたを、ふりがなのように書いてあります。本文の左がわには、共通語訳がひらがなで書いてあります。

(2) むずかしい方言には「注」をつけ、お話のあとに説明を書いております。ほかにもわからないことがあれば、教えてもらってください。

(3) 左の地図は、お話が語られた場所です。よく似たお話が別のところで語られていることもあります。また、⑭⑮⑯は同じお話ですが、ことがちよつとずつ違います。比べてみてください。

(4) じつさいの語りを聞いてみたい人は、ぜひ、漁火の会の集まりに来てください。感想を教えてください。

工夫した点

○釜石市の地図上（左頁）に伝承地点をプロット
○遠野から伝わった話もわかるようにした。



「ほだつたつて、きのなより 今日、今日より 明日つてみてえに、つらつき 悪くなんが、
 「そなたどいって、きのなより 今日、今日より 明日つてみてえに、つらつき 悪くなんが、
 あんべえ 悪がったら、はあ、病院さても 行つて、診てもらつてこじや。」つたどごろあ、
 ぐあいが わるかつたら、もう、びょういんにても いって、みてもらつてこいよ。」つたどごろあ、
 「おれに ぺえつこ 屁 垂れる やまい あんものす。」つたど。
 「わたしに すこし へを たれる びょうきが あるのです。」つたど。
 「屁など 誰でも 垂れんだし、垂れる、垂れる。」つたど。
 「へなど たれても たれるのだし、たれろ。」つたど。
 「んだら、おつかさん、にわさ(ま) 出はつて、白 押せてける。」つたど。
 「それなら、おかあさん、どまに 出はつて、白 押せてくたさい。」つたど。
 「いや、なんじよに 嫁が 屁 垂れるのに、にわさ 出はつて、白 押せえねばねな。」
 「いや、どうして よめが へを たれるのに、どまに 出はつて、白 押せえねばねな。」
 と思つて、だども、嫁(よめ)に 言われたがら、白 がつり 押せてたど。
 とおもつて、けれど、よめに いわれたがら、うすを がつり、おさえていたそだ。
 そうしたどごろあ、それ、何日 垂れねえ 屁だもの、
 そうしたどごろあ、それ、なんにちも たれない へだもの。
 それこそ、けつこ こうして 振るつて やつたつが、ポワンと 垂れたどごろあ、
 それこそ、おしりき ぶつして ぶつて やつたそだが、ぼわんと たれたどごろあ、
 それこそ、婆(ばあ)さま、白 押せたまま、それこそ、飛ばされてしまったんだど。
 それこそ、はあ、うすを おさえたまま、それこそ、飛ばされてしまったそだ。

工夫した点

○子どもが興味を持つイラスト

○両側ルビによる漢字の読みと共通語訳の呈示

南部弁サミットin釜石▶

おらほ弁で 昔話を語っぺし



釜石 漁火の会の語りでよみがえ
「ふるさとの昔話」

めんこい小学生による昔話の語

青森県からのゲスト
(八戸童話会 桎谷伸夫さんほか)

民話劇「つま淵の河童」

とき

2020年1月25日(土)
14:00~16:30(開場13:30)

ところ

岩手県釜石市大町1-1-9
釜石市民ホール

TETTO[テット]ホールB

【交通案内】JR釜石線「釜石駅」・三陸鉄道
南リアス線「釜石駅」より徒歩10分、車5分

入場無料

主催：文化庁事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト・
次世代継承編2」(岩手大学)

共催：釜石市・「発信!方言の魅力 語るびゃ語るべし
青森県の方言2019」(弘前学院大学)



♪復興エール♪

南部弁サミット
in釜石

おらほ弁で 昔話を語っぺし

とき

2021年1月23日(土)
13:30~15:30(開場13:00)

釜石 漁火の会の語りでよみがえる
「ふるさとの昔話」

めんこい小学生の語りもあるよ

民話のふるさと・遠野からのゲストも
青森県からのゲスト(録画メッセージ)

栗林井で語る「なもす劇場」(おもっしょはなしっこ)

ところ

岩手県釜石市大町1-1-9
釜石市民ホール

TETTO[テット]ホールA

【交通案内】JR釜石線「釜石駅」・三陸鉄道
南リアス線「釜石駅」より徒歩10分、車5分

入場
無料

大ホールを使って、ゆったり安心
ソーシャルディスタンス!

★新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、やむをえず開催中止となる場合もございます。中止の場合は、
釜石市民ホールTETTOのホームページのイベントカレンダー等でお知らせいたします。お問合せは
「おらほ弁で語っぺし 事務局: nambuben2kamaishi@gmail.com」までお願いいたします。

主催：文化庁事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト・次世代継承編3」(岩手大学)
共催：釜石市・「発信!方言の魅力 語るびゃ語るべし青森県の方言2020」(弘前学院大学)

なお、単に語りを聴かせるだけでなく、昔話の展開に従って、舞台上の大画面に場面場面の挿絵を投影することで、目と耳の双方から昔話を楽しめる工夫を行った。

また、昔話「つま淵の河童」などを素材に、方言による寸劇の上演も行った。

加えて、隣接する民話のふるさと遠野や、交流のある青森県八戸市の語り手にも、方言昔話を披露してもらった。



南部弁サミット in 釜石
おらほ弁で昔話を語っぺし



南部弁サミット in 釜石
おらほ弁で昔話を語っぺし



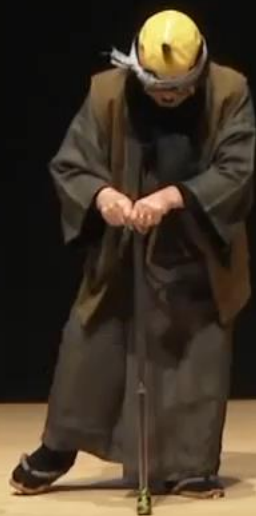


南部弁サミット in 盛石
おらほ弁で昔話を語っぺし



ねる

お世



- 1面／震災伝承へ新団体結成
- 3面／釜石中生が出前授業
- 2面／釜石市からのお知らせ
- 4面／いわて吹奏楽祭 in 釜石

合同会社 釜石新聞社 〒026-0044 釜石市住吉町3番3号
TEL 0193-55-4713 FAX 0193-55-4715 Eメール kumishi-shinbun@mail.plala.or.jp

「おらは弁で語っぺし」

南部弁
サミット

「おらは弁で昔話を語っぺし」と題した南部弁サミットが25日、釜石市大町の市民ホールで開かれた。対手本と方言による民話の伝承活動を行う釜石の「漁火の会」（須知ナヨ会長、10人）が2015年から継続し、6回目の開催。同会会員のほか、遠野市や青森県八戸市の語り部がゲスト出演し、各地に伝わる民話を白濁の「おらは弁」で語り聞かせた。

文化庁の「被災地に
おける方言の活性化支
援事業の採択を受け
復興、方言の保存、継承
を復興の力とし、地域コ
ミュニティー再生につな

げる狙いがある。会場に
は約90人が詰めかけた。
オープニングを飾った
のは、須知会長と娘
の安部三枝さんによる
親子語り。「頭の大い
いおらは」をスクリー
ンに映したユニークな
絵を背景に聞かせた。
須知会長は、民話の宝
庫・遠野市で語りの名
手として知られた菊池
力松氏の末娘。釜石で
昔話語りを始めた第一
人者で、08年に結成し
た同会は地元に限らず
民話の語り起こしと伝承
に大きく貢献している。
愛らしい姿に来場者
が目を奪われたのは、小
佐野小1年の互田莉枝
さん。同サミットに何
度か足を運ぶうちに
「自分もやってみたい」
と声을上げ、今回、「船
買いゆづれい」の語り
で初舞台を踏んだ。
会員6人は釜石に伝
わる昔話を背景、「海
水は何故辛い」「小川
山姥」「八雲神社伝説」



親子語りで楽しませる須知ナヨさん（右）と安部三枝さん



方言保存を民話の力で 遠野や八戸から語り部出演

「おらは弁で語っぺし」を立
ち上げた岩大教育学部
の大野真男教授は「学
習指導要領が改訂さ
れ、小・中学生に方言
と共通語の違い、役割
を理解させることが盛
り込まれた。方言を大
切にしようという方向
性の表れ」と歓迎。
学校などに呼ばれて
昔話語りをしている同
会の千葉まき子さんも
「方言の分らない子
どもたちが増えてい
る。少しずつなじんで
もらい、釜石の方言を
受け継いでいってくれ
れば」と期待を込めた。

初めての語りに挑戦した互田莉枝さん。今後の成長が楽しみ

このような方言による語りの会は7年間継続してきたが、楽しみの少ない2月の行事として少しずつ市民の間に定着してきており、令和元年度には方言話者である高齢者を中心に90名程度の来聴者に恵まれたが、より若い人や子どもたちに聞いてもらうことが次の段階の目標である。



南部弁サミット
おらほ弁
昔話を語っぺし

釜石漁火の会 の語りでよみがえる「ふるさとの昔話」
めんこい小学生の語りもあるよ
民話のふるさと・遠野からのゲストも
青森県からのゲストも
動く民話劇「貧乏神と福の神」

とき
2022年2月5日(土)
14:00~16:00(開場13:30)

ところ 岩手県釜石市大町1-1-9
釜石市民ホール
TETTO [テット] **ホールA**
【交通案内】JR釜石線「釜石駅」・三陸鉄道
南リアス線「釜石駅」より徒歩10分、車5分

★新型コロナの感染拡大状況によっては、やむをえず開催中止となる場合もございます。
中止の場合は、釜石市民ホールTETTOのホームページのイベントカレンダー等でお知らせします。
★当日の様子は三陸ブロードネット「かもめチャンネル」で中継、YouTubeで生配信(要申込)します。
お問合せ・YouTube配信試験申込:おらほ弁で語っぺし事務局 nambuben2kamaishi@gmail.com

主催:文化庁事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト・次世代継承編4」(岩手大学)
共催:釜石市・「発信!方言の魅力 語るびや・語るべし青森県の方言2021」(弘前学院大学)

参考文献

- 大野眞男（2015）「方言の継承における研究者の役割」大野眞男・小林隆編『方言を伝える―3.11東日本大震災被災地における取り組み―』（ひつじ書房）
- 国立国語研究所（2011）『文化庁委託事業 危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書』国立国語研究所』
- Edwards, J. (2009) *Language and Identity: An Introduction*. Cambridge University Press.
- UNESCO Ad Hoc Expert Group on Endangered Languages Language (2003) Language Vitality and Endangerment.